

ヨーロッパ糖尿病学会の学会誌 (Diabetologia) に、インスリングラルギン (商品名: ランタス®) と発がんに関する4つの論文 (注) が掲載されたことに関して、日本糖尿病学会から次の情報が提供されています。

http://www.jds.or.jp/jds_or_jp0/modules/news8/article.php?storyid=134#134

インスリングラルギン (商品名: ランタス®) に関する患者さんへのお知らせ

平成21年7月1日

6月26日、ヨーロッパ糖尿病学会 (EASD) は、サノフィ-アベンティス社が販売しているインスリン製剤ランタスと発癌との関連についての一連の論文が学会誌 Diabetologia に掲載されることになり、そのうち癌の頻度が高くなるという報告とそうではないという報告があり、結論には達していないと発表しました

(<http://www.diabetologia-journal.org/cancer.html>)。まず現在、インスリンを使用している患者さんは、ご自身の判断でインスリンの注射量を変更したり使用をやめたりしないでください。また、現在のご自身のインスリン治療に不安を感じていらっしゃる方は、ぜひ主治医にご相談ください。今後、日本糖尿病学会では本件に関して引き続き情報収集を行っていくこととし、厚生労働省や日本糖尿病協会とも連携しながら、必要な情報を提供していきたいと思っております。

日本糖尿病学会

問い合わせ先

学術調査研究・教育担当 南條輝志男

広報担当 加来浩平

事務局長 植木浩二郎

(注)

今回発表された4つの観察研究の結果は、一定した結論は得られておらず、ランタスと発がんとの因果関係は確認も否定もできない。

○ドイツの研究では、保険の大規模な診療記録のデータベースを用い解析し、ランタス使用患者は他のインスリン製剤の使用患者よりもがんのリスクが高いとの結果を示した。

○スウェーデンとスコットランドの研究では、他のインスリン製剤とランタスを併用した患者においてがんのリスクは上昇しなかった。ただし、スコットランドの研究では、ランタス単独の使用患者では他のインスリン製剤単独の使用患者よりもがんのリスクは高かった (約1.5倍)。また、スウェーデンの研究では、ランタス単独使用の女性患者において乳がんのリスクが上昇した (1年間で治療患者1000人当たり、約1人か2人の上昇)。ランタス使用患者は高齢であり、がんに関連するその他のファクターを有しているため、ランタスとがんの関係を証明するものではなかった。

○英国の研究では、ランタスとがんとの関係は見られなかった。